

12月に入り、ニースの街は本格的なクリスマスムードに包まれました。11月までとは打って変わって、クリスマスマーケットは連日多くの人で溢れかえり、街中がクリスマスの話題一色になります。この時期は朝晩の寒暖差が激しく、周囲には体調を崩す人も増えていたため、私自身もいっそう体調管理に気を配りながら過ごしてきました。

12月のホリデーについて

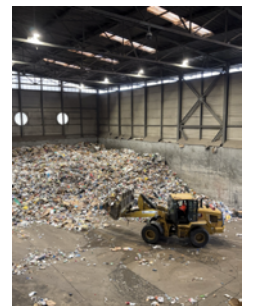
12月22日から、約2週間のホリデーが始まりました。フランスではこの期間、多くの学生が自分の国へ一時帰国して家族と過ごしたり、逆に家族をこちらに呼び寄せたりして、水入らずの時間を楽しみます。私の場合は、日本から母と妹がパリに遊びに来てくれたため、私も現地で合流して一緒にパリ観光を楽しみました。当初は他の友人たちのように近隣のヨーロッパ諸国への旅行も計画していましたが、昨今の円安やホリデーシーズンの航空券高騰を考慮し、海外旅行は2月のホリデーに延期することにしました。今回の旅で特に心に残っているのは、初めてエッフェル塔を目にした瞬間です。ニースからパリへの移動は国内線ですが、空港の搭乗口を通る際、「自分は今、本当にフランスにいるのだな」と改めて実感し、胸がときめきました。パリ滞在中は、少し足を伸ばしてモン・サン・ミッシェルも訪れました。冬のこの地域は曇り空が多いと聞いていましたが、幸いなことに天候に恵まれ、一日中晴天の下で素晴らしい景色を堪能することができました。幸い天気にも恵まれ、曇りの多いモン・サン・ミッシェルでの観光は一日晴れのまま終わることが出来ました。パリでの時間は非常に充実していましたが、驚いたのは同じフランス国内でも地域による気候の差です。暮らしている南仏に比べ、冬のパリの寒さは想像以上でした。地域ごとの文化や気候の違いを肌で感じられるのも、現地で生活する留学ならではの醍醐味だと感じています。

BOOT CAMP WEEK について

ホリデー前の一週間、校内では「BOOT CAMP WEEK」という短期集中クラスが開催されます。これはファッション、アニメーション、モデリングなど多岐にわたるコースの中から、自分の興味に合わせて一つを選び、専門講師のもとで一週間集中的に学ぶプログラムです。

私は今回、ゴミの分別や行政連携をテーマにしたコースに参加しました。実際にリサイクルセンターを見学し、フランスの分別制度や人々の意識の現状を視察。そこで感じた課題をどうデザインで解決すべきかを深く考察しました。

この一週間は、短期間で目に見える成果を出すことが求められるため非常にハードですが、その分大きなやりがいと確かな成長を感じることができました。



見学に行ったゴミ処理場の写真



友人たちとのクリスマスパーティーの様子



バースデーパーティーの様子

クリスマスは家族のためのイベント

日本では「クリスマスは恋人と過ごすもの」というイメージが強いかもしれませんが、フランスをはじめとするヨーロッパの学生たちにとって、クリスマスは「家族と過ごすための大切な行事」です。そのため、ホリデーが始まると多くの留学生たちが一斉に帰省し、家族との時間を優先させていました。

興味深いことに、日本とは過ごし方が逆転しています。彼らにとっての新年（ニューイヤー）は、友人や恋人と賑やかに過ごす時間なのだそうです。実際にカウントダウンの夜には、友人同士でホームパーティーを開いたり、庭先で花火を打ち上げたりする家庭が多く見受けられました。カンヌやニースの海岸でも盛大に花火が上がり、多くの人が新年の訪れを祝います。

今回のホリデー中、私は友人の誕生日会やパリ旅行の予定は立てていたものの、クリスマス当日だけは特に予定を入れていませんでした。後日そのことを友人に話すと、「そうと知っていたら、迷わず自分の家族のクリスマスパーティーに招待したのに!」と口々に言ってくれました。その言葉に、彼らの家族を大切にする心と、私への温かな気遣いを感じて胸がいっぱいになりました。

実は、事前に予定を話していた際、友人は私がクリスマス当日もパリにいるものと勘違いしていたようです。私自身、「クリスマスがこれほどまでに家族優先の絶対的なイベントである」という認識が薄かったため、事前のコミュニケーションが少し不足していました。

パリとニースそれぞれの色

ホリデーを利用してパリを訪れ、初めてフランスの北側へ足を運びました。そこで感じたのは、同じ国であっても、街並みや人々の雰囲気は驚くほど異なるということです。日本に東西の文化差があるように、フランスも一括りには語れない多様性があるのだと実感しました。

まず直感的に感じたのは、南仏の人々と比べると、パリの人々は少しドライであるという点です。もちろん人によりますが、困っている時にさっと手を差し伸べてくれる温かさは、ニースの方がより身近にあるように感じました。

また、環境面でも大きな違いがありました。物価はニースよりもさらに高く設定されていますが、街並みに関しては想像していたよりもずっと清潔で、道幅が広く整備されているのが印象的でした。

さらに、世界屈指の観光地としての機能性にも感銘を受けました。人気のスポットには必ず英語の併記があり、日本人観光客の多い場所では日本語の案内さえ見かけました。パリという都市が、いかに多様な国からの人々を受け入れ、多言語で対応しているかを知る良い機会となりました。

終わりに

今回の内容はまだ未定ですが、次回の月例報告書も楽しみにしてください。



パリの街並み